

5 一般社団法人日本溶接協会この10年の歩み(年表)

年次	日本溶接協会事項	溶接界事項, 関連事項, 一般事項
2009年 (平成21年)	<ul style="list-style-type: none"> ○溶接技能者評価試験の学科受験者数が前年比9.5%増の2万8,168人と高い伸びを維持し、受験者数の合計は2年連続で10万人を越す10万6,992人に(4月)。 ○第31期第60回通常総会の席上で、宮田隆司会長がかねてから建設を検討していた「溶接会館」について、平成23年度の竣工に向け具体的な建設計画に着手する方針を明らかにした(6月11日)。 ○マレーシア溶接協会との間に、両協会の交流を深め、マレーシアへの溶接技術者認証制度の導入に向けたMOU(覚書)を取り交わす(7月15日)。 ○規格委員会で、経済産業省が宮田隆司会長宛てに通知した溶接技術検定制度に関する報告書に対する文書について意見交換(9月11日)。 ○ウェブサイト溶接情報センターで、教育訓練用動画「TIG溶接～ステンレス鋼・実技のポイント～」の公開を開始(9月)。 ○フィリピン溶接協会との協力関係締結により開始した溶接管理技術者認証制度に関する具体的協力の一環として、ATOS(財団法人海外技術者研修協会)の補助を受けて10月19日から24日までの6日間、比・セブシティで第5回溶接管理技術者資格取得のための教育セミナーおよび認証試験を実施。 ○日本溶接協会四国地区溶接技術検定制度委員会の創立50周年記念式典が10月23日に松山市の松山全日空ホテルで開催。 ○ウェブサイト溶接情報センターで、教育訓練用動画「ガス切断の実技～安全な作業をするために～」を公開。 ○日本溶接協会関西地区溶接技術検定制度委員会の創立60周年記念式典が11月14日に大阪市で開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鹿児島市の桜島が爆発的噴火。 ○国際宇宙ステーションで日本が担当する実験棟「きぼう」が24年かけて完成。 ○裁判員制度による初の裁判が始まる。 ○NEDO、純アルゴンミグ溶接実用化へ、ファイバーレーザー溶接条件を確立。
2010年 (平成22年)	<ul style="list-style-type: none"> ○全国溶接技術競技会運営委員会では平成22年度第56回関西地区滋賀大会から採用される新競技課題の案内を配布し、関係者の周知を図る(2月)。 ○正会員の投票による第32期(平成22・23年度)評議員選挙を開票し、2月15日開催の理事会席上で当選者を発表。会長には宮田隆司名古屋大学理事・副総長を選出。宮田会長は4期目となる。 ○第1回関東甲信越高校生溶接コンクール(主催:東部地区溶接協会連絡会、後援:日本溶接協会、特別協力:国際ウエルディングショー事務局)が4月24日、東京ビッグサイトの2010国際ウエルディングショー特設会場で開催される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還。 ○羽田空港新国際線ターミナルが供用開始、羽田空港国際線ターミナル駅が開業。 ○使用済み核燃料貯蔵施設着工、溶接構造物に最大800億円。 ○溶接学会溶接法研究委員会発足50周年記念シンポジウムが11月18日に神戸市で開催される。 ○原子力安全・保安院で原子力発電所の供用期間中検査が適切に実施されていなかった事例を踏まえ、電力会社に対し、製造事業者との間で原発の溶接箇所に関する設計情報を共有した上で、再発防止策を12月5日まで報告することを指示。 ○日本鉄筋継手協会が高分子材料と天然ガスを使用した新しい圧接法による鉄筋継手工事標準仕様書「高分子天然ガス圧接継手工事」を制定。

<p>2011年 (平成23年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○第3回全国指定機関委員会で、平成22年度の新課題となる全国溶接技術競技会の実施要領などについて意見交換（4月22日）。 ○平成22年度通常総会の席上、新公益法人（非営利法人）申請に向け、具体的準備入る方針を示す（6月16日）。 ○溶接情報センターのアクセス数が1日に約3,000件を超える。 ○はんだ・微細接合部会で8月31日、東京・駿河台の化学会館でシンポジウム「地球にやさしい電子実装技術～生物多様性保全に貢献する実装技術」を開催。 ○ガス溶断器認定委員会が認定した製品に表示する「JWAマーク」の不正表示品と模倣品が台湾で見つかった問題で、台湾当局の決定により日本溶接協会が勝訴したことを発表。また、中国でJWAマークの商標登録手続きが完了したことを発表（9月27日）。 ○溶接会館建設工事に当たり、地鎮祭が11月9日、東京・千代田区神田佐久間町4-20の建設地で挙行され、建設工事の運びとなる。 ○溶接技能者評価試験の平成22年度上期の学科受験者数が6万9,186件で前年同期比5.5%の減少。 ○溶接技能者評価試験の平成22年度受験者数が前年度比6.4%減の10万5,477人に。 ○東日本大震災で被災した各種資格保有者・事業所の支援について「今年度の最重要課題」と位置づけ、震災支援事業にともなう経費について数千万円の規模となる見通しを発表。 ○溶接技能者認証委員会と全国幹事会の合同委員会で、現行のJIS検定とは別にISO 9606国際規格に基づく溶接技能者認証のためのISO検定を実施に向けて討議（9月2日）。 ○特殊材料溶接研究委員会が12月2日、東京・港区で「スーパーアロイの溶接－耐熱・耐食合金の溶接ガイドブック」（産報出版）の発刊を記念して、講習会「スーパーアロイの特性と溶接」を開催。 ○東日本大震災にともなう溶接技術検定にかかわる料金免除の特例措置を2012年9月30日で終了することを決定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国土交通省が12月7日、新造船政策検討会の初会合を開催。 ○3月11日にマグニチュード9.0の東日本大震災発生死者・行方不明者数は2万人以上。 ○NEDOで戦略的先端ロボット要素技術開発プロジェクトの成果を報告。3年以内の実用化を目指す。 ○中小企業基盤整備機構の平成20年度戦略的基盤技術高度化支援事業「高品質固体レーザーによる遠隔切断技術の開発」（事業管理者：若狭湾エネルギー研究センター）で原子炉解体に水中レーザー切断を活用。 ○溶接学会の第79回通常総会の席上、新法人制度による「一般社団法人」化への対応を図ることで一致。 ○日本、韓国、中国の東アジア3カ国の溶接学会による溶接技術の最新技術開発情報交換を目的とした第1回EAST-WJ（東アジア溶接・接合技術シンポジウム）が5月31日に中国・上海で開催。 ○鉄骨建設業協会の会員であるファブリケータ大手4社が東京電力福島第一原子力発電所事故の収束に向け活動を始動。 ○日本鋼構造協会狭開先ロボット溶接技術研究委員会で、25°狭開先ロボット溶接の普及に向け技術的条件の明確化を図り、25°狭開先ロボット溶接に関するガイドライン、ロボット溶接装置・オペレーション技能に関する基準・標準・精度への提言を策定。 ○日本技術士会が8月26日、東京・経団連会館で創立60周年記念式典を開催。 ○東北新幹線で新幹線E5系電車がデビュー 最速列車「はやぶさ」運行開始。 ○2011 FIFA女子ワールドカップドイツ大会で、サッカー日本女子代表が初優勝。 ○新日本製鐵と住友金属工業が10月1日に統合することを発表。12月1日に新日鐵住金が発足へ。
--------------------------	--	---

2012年 (平成24年)	<ul style="list-style-type: none"> ○溶接会館が3月8日に竣工。本部の移転作業も終了し、3月12日より新事務所での業務を開始。 ○建設部会が5月11日、溶接会館で開催した平成24年度第1回(第218回)本部会の席上、技術講演「東京スカイツリーの制作について」を行う。 ○第33期会長および監事選挙の結果、会長に宮田隆司名古屋大学審議役を選出。宮田会長は5期目の就任となる。 ○初の開催となる四国地区高校生溶接技術競技会が7月25、26日に新居浜市で開催。 ○マイクロソルダリング技術資格に関する要員認証制度が20周年を迎える(2012年10月)。 ○特許委員会が12月13日、溶接会館で「審査実務研究会報告書2011」を基に特許庁との討論会を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ○NEDOが2007年から5カ年計画で展開してきたプロジェクト「鉄鋼材料の革新的高強度・高機能化基盤研究開発」が最終年を迎える。 ○国土交通省で新設の道路橋の設計に用いる「橋、高架の道路等の技術水準(道路橋示方書)を改訂し、鋼橋の溶接に関するJIS検査技術者の設置を義務づけ。 ○原子力安全・保安院で、日本原子力研究開発機構大洗研究開発センターが建設計画を進めている「OWTF(固体廃棄物減容処理施設)」の溶接に関する技術的検討を開始。 ○経済産業省でCFRP(炭素繊維強化プラスチック)など難加工素材向けのレーザ加工技術開発に乗り出す。 ○東京スカイツリーが開業。 ○物質・材料研究機構で「社会インフラの復旧、再生に向けた構造材料の開発」プロジェクトを立ち上げ。 ○ノーベル生理学・医学賞に京都大学教授山中伸弥氏が受賞。 ○ホンダ、FSWで鉄とアルミの異材接合。車体骨格で初の量産。 ○軽金属溶接協会は10月23日、東京ガーデンパレスで「創立50周年記念式典」を開催。
2013年 (平成25年)	<ul style="list-style-type: none"> ○平成25年4月1日付一般社団法人日本溶接協会に法人名を変更。 ○溶接棒部会が4月1日付で溶接材料部会に名称変更。 ○日本溶接協会の東日本大震災および福島第一原子力発電所事故にともなう支援状況が支援件数1万2,167件、金額で5,899万6,190円に。 ○一般社団法人への移行後初の総会を開催(6月12日)。 ○日本溶接協会溶接検査認定(CIW)委員会が11月28日、東京・港区の浜松町東京會館に国土交通省、東京都、関係団体、認定事業者など約120を集め、設立50周年記念式典を開催。 ○日本溶接協会九州地区溶接技術検定委員会の九州検定試験場竣工記念式典が11月9日、北九州市小倉北区のリーガロイヤルホテルで開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビ放送における東京スカイツリーからの本放送開始。 ○富士山が世界文化遺産に登録される。 ○大阪大学接合科学研究所はアルミニウム製造メーカーや化学メーカー、軽金属溶接協会と共同で、炭素繊維強化プラスチック(CFRP)と金属の摩擦重ね接合法(FLJ)を開発。 ○次世代ステンレス車両にレーザ溶接の積極的活用で、アルミ車両並の軽量化を実現。 ○新日鐵住金が開発したLNGタンク用7%ニッケル鋼板をLNGタンクに採用。 ○政府が、東京電力福島第一原子力発電所の汚水処理に溶接型タンクの増設を決定。
2014年 (平成26年)	<ul style="list-style-type: none"> ○WL(溶接作業指導者認証)の設立30周年記念祝賀会が2月21日大阪阪急ホテルで開催。 ○わが国の社会基盤を支える溶接・接合技術の今後のさらなる発展と活性化を図るため、次世代を担う研究者の活動を助成・援助する2015年度次世代を担う研究者助成事業を実施へ(4月)。 ○機械部会で「最近のパイプラインの溶接施工技術とその将来」改訂版2版を4月から頒布開始。 ○ガス溶断部会が2014年にパンフレット「ガス溶断機器の点検のお願い」について英語、中国語、韓国語版の翻訳を行い、国内の外国人作業員へ配布へ(4月)。 ○ISO/TC44/SC3(溶接)東京会議が7月21日から25日、溶接会館で開催。アジアでは10年ぶりの開催となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あべのハルカスが完成し、日本一高いビルとなる。 ○近畿高エネルギー加工技術研究所(AMPI)が2月4日、尼崎で創立20周年記念式典開催。 ○宇宙飛行士の若田光一氏が日本人初の国際宇宙ステーションの船長に就任。 ○富岡製糸場が世界文化遺産に登録。 ○御嶽山が7年ぶりに噴火し、50人以上が死亡。 ○モンゴル工業技術大学で日本式高専教育事業を本格始動。溶接を重視した教育プログラムが特徴。 ○経済産業省で3Dプリンターによる付加価値と今後のものづくりのあり方に関する報告書をまとめる。 ○三菱航空機が国産初の小型旅客機「MRJ」の地上試験場と試験機を公開。 ○新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、2014年度から22年度にかけて新規プロジェクト「革新的新構造材料等研究開発」を展開。

2015年 (平成27年)	<ul style="list-style-type: none"> ○2015年度第61回全国溶接技術競技会関西地区大阪大会から新課題を採用へ。 ○「2015年度次世代を担い研究助成事業」の研究テーマ10件を決定。2015年度から運用を開始。 ○「溶接継手の放射線透過試験デジタル検出器によるX線及びγ線撮影方法」のJIS原案作成に着手(1月)。 ○4月1日付でCMRDI(エジプト中央冶金研究所)との間で、溶接技術協力に関する覚書を締結。 ○宮田隆司会長が、溶接界のイメージアップに向け、若年層と女性に対する情報発信が重要との認識で、工業高校、普通高校の理系教育で溶接のピーアールに努めることを6月10日、東京ガーデンパレスで開催された2015年度通常総会席上で方針語る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日立製作所が英国運輸省の都市間高速鉄道計画向けにFSWを採用したアルミ合金製車両の1編成を出荷。 ○外国人実習生の受入団体や企業を指導監督する機関を設置するなど技能実習制度の適正化に関する法案を閣議決定。 ○安川電機が創立100年を記念して本社内に「ロボット村」を竣工。 ○コマツがICTの活用により、生産から販売までの「つながる化」を目指し生産改革に着手。 ○北陸新幹線開業、東京-金沢間が2時間半に。 ○スマートウォッチ“Apple Watch”発売。 ○産業技術総合研究所と日本プラスチック工業連盟が経済産業省の支援を受けた「異種材料複合体の特性評価試験方法」がISOに承認を受ける。 ○ノーベル医学・生理学賞を北里大特別栄誉教授の大村智氏が受賞。 ○国産初のジェット旅客機「MRJ」、初飛行成功。 ○日本建設業連合会の建築生産委員会施工部会鉄骨専門部会で、「日建連溶接標準」を作成。 ○大林組が現場で行う溶接型鉄骨梁の耐震性向上と省力化を実現する現場上向きロボット溶接工法を開発。
2016年 (平成28年)	<ul style="list-style-type: none"> ○日本海事協会と溶接分野の人材育成および認定・認証に関する包括的提携に関する協定書を締結したと発表(1月)。 ○ISO9606-1に基づく初の溶接技能評価試験を2月26日、貝塚市の日鉄住金パイプライン&エンジニアリングで実施。 ○京都府内の国道24号勸進橋で発覚した落橋防止装置の溶接不良に端を発して、国土交通省、経済産業省が関連団体に送付した要請書を受け、2月29日付で対応を発表。再発防止に向け、国土交通省に対しては非破壊検査事業者の認定審査の厳格化とともに、溶接管理技術者などの認証おける倫理規定の導入と審査の厳格化を表明。経済産業省に対しては非破壊検査事業者のCIW認定制度でISO9001あるいはそれと同等以上のシステムを要求する方針を示した。 ○台湾溶接協会との溶接技術に関する協力協定を締結し、台湾でWES溶接管理技術者認証事業の展開が図られることになった(4月14日)。 ○第35期の会長に東京大学の粟飯原周二教授が就任。会長職を6期12年間務めた名古屋大学名誉教授の宮田隆司氏は顧問に就任(6月8日)。 ○溶接材料部会技術委員会が発足60周年を迎える。 ○日本溶接協会と溶接学会が溶接界のさらなる発展に向け連携を強化。両団体で運営する日本溶接会議(JIW)を改組し、国際溶接学会(IIW)対応の充実を図るとともに、共同事業の推進に関して相互理解を得たことを受け、10月から順次活動を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マイナンバー制度の利用が開始。 ○JFEスチールと三菱重工船舶海洋が衝突時の安全性を高める船舶用高強度厚板鋼板を開発。 ○経済産業省とドイツ経済エネルギー省との間で、IoT/インダストリー4.0協力にかかわる共同声明に署名。 ○主要国首脳会談が三重県の伊勢志摩で開催。 ○経済産業省が火力発電設備の溶接部などの安全管理検査制度について工程合理化に向けた見直しを検討。 ○大成建設がロボットを適用した柱鉄骨の現場溶接自動化工法開発。 ○ダイヘンと大阪府立産業技術総合研究所が金属3Dプリンタを使用した銅合金の3積層造形技術を確立。 ○革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)の一環として、ドローンの監視による自在な遠隔操作性と繊細な作業性を備えた重作業ロボットの実験機を開発。

2017年 (平成29年)	<ul style="list-style-type: none"> ○はんだ・微細接合部会が12月9日、溶接会館でシンポジウム「IoT時代の様々なものをつなぐ技術」を開催。 ○日本溶接協会と溶接学会では溶接界の拡大と発展に向けた連携強化の一環としてJIWに共同企画委員会を設立（2月15日）。 ○栗飯原周二会長は今後建築鉄骨分野などで懸念される技能者不足や、溶接界における研究者や教育機関の減少が深刻化しているとの認識を示し、「溶接学会や各関連団体との連携と、建築分野での活動を強化するとともに、溶接技能者教育を開始する」と活動方針を6月14日、東京ガーデンパレスで開催された2017年度定時総会で示した。 ○原子力研究委員会が創立60周年を迎え、7月7日、浜松町東京会館で創立60周年記念シンポジウムを開催。 ○ロボット溶接研究委員会が創立35周年を迎え、10月18日、溶接会館で記念シンポジウムを開催。 ○「溶接マイスター制度」を立上げ、第1回の任命式を2019年11月の日本溶接協会創立70周年記念式典で行う計画を示す。 ○はんだ・微細接合部は発足30周年を記念して、11月14日に記念シンポジウムを開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ○桐生祥秀氏が100mで日本人初の9秒台「9秒98」を記録。 ○2020年東京五輪・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場（東京・新宿区）の建設工事順調に。 ○日本船舶技術研究協会と日本財団の助成を受けた造船会社と共同開発した「造船上向作業用アシストスーツ」のプロトタイプが公開。 ○神戸製鋼所が独自の異材接合技術「エレメントアークスポット溶接」を発表。 ○国土交通省では2018年度以降に入国する外国人建設就労者の就労時間を見直す。 ○国土交通省は海事生産性革命（アイ・ SHIPPING）の一環として、IoTやAIを活用した革新的造船技術の研究開発を支援。 ○国立博物館では科学技術の発達上重要な成果を示し、次世代に継承していくうえで重要な意義を持つ科学技術史資料の未来技術遺産に溶接機を認定。
2018年 (平成30年)	<ul style="list-style-type: none"> ○2018年溶接界新春賀詞交歓会を1月9日に東京プリンスホテルで開催。産学官の溶接関係者約800名が参集。 ○表面改質技術研究委員会は創設30周年を迎え、3月1日に溶接会館で記念シンポジウムを開催。 ○2018国際ウエルディングショーが4月25日から28日までの4日間、東京ビッグサイトで開催。出展者数は247社、来場者は10万428人を記録。 ○「外国人技能者活用へのアプローチー東南アジアにおける溶接訓練機関の状況を見る」セミナーを4月27日、溶接会館で開催。 ○特殊材料溶接研究委員会が設立65周年を迎え、65周年記念行事を5月16日、東京の学士会館で開催。 ○化学機械溶接研究委員会が創立60周年を迎え、記念シンポジウムを9月3日、東京の如水会館で開催。 ○厚生労働省委託事業中小企業等担い手育成支援のための溶接技能者育成プログラムの開設 	<ul style="list-style-type: none"> ○宇宙航空研究開発機構（JAXA）がイプシロンロケット3号機を1月18日に打ち上げ成功。 ○東京都千代田区有楽町、旧三信ビルディング、日比谷三井ビルディング跡地に、地上35階建の高層ビルを含む複合商業施設東京ミッドタウン日比谷が3月29日に開業。 ○神戸製鋼所とファナックが超ハイテン鋼板とアルミなどの異種金属や超ハイテン鋼板同士の接合において、最高強度で接合可能なロボットシステムを開発。 ○日本の宇宙航空研究開発機構（JAXA）は9月22日、探査機「はやぶさ2」が分離した探査ロボット「ミネルバ（ローバー）II-1」が小惑星「リュウグウ（小惑星）」に着陸したと発表。 ○トヨタ自動車とソフトバンクグループが自動運転車技術などモビリティ（移動手段）に関する新たなサービスで提携し、共同出資会社を設立すると発表。 ○探査船「ちきゅう」が10月10日に静岡県清水港を出航。今回の研究航海は西日本を中心に甚大な被害が想定される南海トラフ巨大地震などの巨大地震の発生メカニズムを探るのが目的。 ○清水建設が高層ビル工事現場において鉄骨溶接など建設ロボットの稼働を開始。 ○10月20日に水星探査機「みお」の打ち上げに成功。2025年に水星に到着予定。 ○外国人労働者を受け入れる改正出入国管理法が可決。 ○川崎重工業とABBグループが共通の協働ロボットオペレーティング・ユーザーインターフェースを開発。 ○NEDOプロジェクトにおいて、高輝度青色半導体レーザーを活用した金属積層技術と切削技術を融合したハイブリッド複合加工機を開発。